



2020年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年10月30日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社トライアイズ
 コード番号 4840 URL https://www.triis.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 池田 均
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理部長 (氏名) 上嶋 悦男 TEL 03-3221-0211
 四半期報告書提出予定日 2020年11月13日
 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切り捨て)

1. 2020年12月期第3四半期の連結業績（2020年1月1日～2020年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年12月期第3四半期	645	△53.1	26	△87.1	△15	—	△30	—
2019年12月期第3四半期	1,377	16.5	206	—	150	—	103	—

(注) 包括利益 2020年12月期第3四半期 △134百万円 (—%) 2019年12月期第3四半期 9百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年12月期第3四半期	△4.17	—
2019年12月期第3四半期	12.95	12.02

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年12月期第3四半期	6,570	4,197	61.1	542.71
2019年12月期	6,861	4,431	62.0	577.02

(参考) 自己資本 2020年12月期第3四半期 4,019百万円 2019年12月期 4,255百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年12月期	—	0.00	—	15.00	15.00
2020年12月期	—	0.00	—		
2020年12月期(予想)				12.00	12.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2020年12月期の連結業績予想（2020年1月1日～2020年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,019	△40.5	101	△59.5	37	△78.9	4	△96.5	0.58

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名） 除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年12月期3Q	8,300,000株	2019年12月期	8,300,000株
② 期末自己株式数	2020年12月期3Q	893,843株	2019年12月期	925,263株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年12月期3Q	7,396,443株	2019年12月期3Q	7,996,480株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大の影響を受け、回復基調にあった景気は急速に悪化しました。特に、感染症拡大による外出、イベント及びセレモニーの自粛、渡航制限、休業要請等により個人消費は大きく落ち込むこととなりました。そして、新型コロナウイルス感染症の拡大が依然として収束しておらず、不透明かつ厳しい経営環境が継続している状況にあります。

このような経済環境のなか、トライアイズグループは、景気変動の影響を受けない企業グループとして、小さくとも知性を使って、その世界ではNo. 1となり光る企業グループを目指すという方針のもと、「イノベーションによるコスト優位の確立」を最重要目標とし、売上が減少しても黒字化できる体質づくりを続けており、営業利益、経常利益及び最終利益の黒字化(いずれも連結ベース)を目指しております。

これらの結果、当社グループの当第3四半期連結累計期間の売上高は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、建設コンサルタント事業及びファッションブランド事業において売上高が大幅に減少したことにより、645百万円(前年同期比53.1%減)と前年同期より著しく減少する結果となりました。従前より継続して取り組んでいる諸々の収益拡大の施策の効果により、建設コンサルタント事業及びファッションブランド事業の原価率は前年同期よりも改善し、販売費及び一般管理費も340百万円(前年同期比25.0%減)と更なる削減を実現することができたものの、売上高の減少に伴う利益の減少をカバーするには至らず、営業利益は26百万円(前年同期比87.1%減少)という結果となりました。

営業外収益及び営業外費用については、当初想定のとおり推移いたしました。この結果、15百万円の経常損失(前年同期は150百万円の経常利益)と経常損益は損失に転じました。しかし、投資事業における収益物件の売却により34百万円の固定資産売却益を計上した結果、税金等調整前四半期純利益は19百万円(前年同期比88.0%減)と一転して利益に転じたものの、法人税等の計上により、親会社株主に帰属する四半期純損失は30百万円(前年同期は103百万円の親会社株主に帰属する四半期純利益)と、前年同期と異なり純損失を計上する結果となりました。当第3四半期連結累計期間におけるセグメント別の経営成績は以下のとおりです。

(建設コンサルタント事業)

建設コンサルタント事業においては、従来型ダム関連業務、河川防災・減災対策業務及び海岸保全業務を中心に受注しました。引続き、発注比率が高まっている防災・減災対策関連業務やダム、河川構造物、海岸・港湾分野の維持管理を中心とした継続性の高い業務の受注シェア拡大と受注に対応する人員体制の整備等生産性を向上させる施策の実行により、収益の改善を図ります。

当第3四半期連結累計期間は、受注高が当初の想定を下回る結果となったほか、当初当連結会計年度内で完成を予定していた一部の業務が、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け完成時期が先送りとなり、当期受注当期完成業務の売上高が当初の想定を下回る結果となりました。

この結果、売上高は310百万円(前年同期比65.8%減)と前年同期と比較して大幅に減少する結果となりました。また、経費の縮減政策や業務の見直しを行ったことにより、原価率の改善及び販管費の縮減を果たすことができたものの、前述の売上高の減少を補うには至らず、第3四半期連結累計期間は67百万円の営業損失(前年同期は118百万円の営業利益)を計上する結果となりました。

(ファッションブランド事業)

ファッションブランド事業においては、前述のとおり新型コロナウイルス感染症拡大による外出、イベント及びセレモニーの自粛の影響を特に強く受けたことから、前年同期よりも厳しい経営環境となりました。そのような環境のもと、ロイヤルティビジネスによる安定的な収益の確保及び収益拡大のため、ブランドCLATHASについては、販路の新規開拓を継続しております。また、連結子会社の拓莉司国際有限公司も引続きブランド認知に努め、ライセンス事業の強化を図ってまいります。

濱野皮革工藝㈱の製品は、軽井沢工場の所在地である長野県御代田町におけるふるさと納税の返戻品として引続き認定されているほか、雑誌・テレビ等各種のメディアにおいても取り上げられております。これまでの伝統と技術を継承しながら、同社製品のブランド価値を向上させるための施策に引き続き取り組んでまいります。

当第3四半期連結累計期間の売上高は、イベント及びセレモニーの自粛の影響により当社主力製品の需要が大幅に減少したことに加え、販売先の小売店の休業の影響により183百万円(前年同期比43.5%減)と前年同期と比較して大幅に減少する結果となりました。不採算業務の廃止及び経費の縮減施策により、原価率の改善及び販管費の縮減を果たすことができたものの、前述の売上高の減少を補うには至らず、第3四半期連結累計期間は36百万円の営業損失(前年同期は21百万円の営業利益)を計上する結果となりました。

(投資事業)

投資事業においては、引続き米国の子会社TRIIS INTERNATIONAL AMERICA INC.において、住居用物件と工業用物件の賃貸をしております。物件の稼働は堅調に推移しており、今後はより収益性の高い物件の取得及び入替を促進し、収益性の向上を図ってまいります。

当第3四半期連結累計期間は収益物件が堅調に稼働した結果、売上高は151百万円(前年同期比6.0%増)と当初の想定通りの結果となりました。また、前連結会計年度において発生したテナント獲得のための一時的な支出が未発生となったほか、渡航制限により出張経費が減少したため、営業利益は110百万円(前年同期比87.3%増)と大幅に増加する結果となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は6,570百万円と前連結会計年度末に比べ290百万円減少、負債は2,372百万円と前連結会計年度末に比べ56百万円減少、純資産は4,197百万円と前連結会計年度末に比べ234百万円減少いたしました。

(流動資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は、前連結会計年度末に比べ263百万円減少し、2,289百万円となりました。これは主に、「現金及び預金」が523百万円減少した一方、建設コンサルタント事業の「仕掛品」が96百万円増加したほか、投資有価証券の売却により、流動資産「その他」が153百万円増加したことによるものであります。

(固定資産)

当第3四半期連結会計期間末における固定資産は、前連結会計年度末に比べ27百万円減少し、4,280百万円となりました。これは主に、投資有価証券の売却により「投資有価証券」が93百万円減少したことに加え、投資事業における外貨建有形固定資産の売却、新規物件の購入及び換算為替相場の変動に伴い「建物及び構築物」が94百万円増加、「土地」が65百万円減少したことによるものであります。

(流動負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は、前連結会計年度末に比べ46百万円増加し、429百万円となりました。これは主に、建設コンサルタント事業の「前受金」が139百万円増加したほか、法人税及び消費税の納付により「未払法人税等」及び流動負債「その他」がそれぞれ25百万円及び62百万円減少したことによるものであります。

(固定負債)

当第3四半期連結会計期間末における固定負債は、前連結会計年度末に比べ103百万円減少し、1,943百万円となりました。これは主に、外貨建「長期借入金」の換算為替相場の変動及び返済により102百万円減少したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ234百万円減少し、4,197百万円となりました。当第3四半期会計期間における新型コロナウイルス感染症拡大の影響が当社の予測を超えるものであり、建設コンサルタント事業及びファッションブランド事業の売上高が2020年2月13日に公表した当初の予測は主に、利益配当に伴う利益剰余金101百万円の減少、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上に伴う利益剰余金30百万円の減少、換算為替相場の変動による「為替換算調整勘定」111百万円の減少及び自己株式の処分に伴う「自己株式」12百万円の増加によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

弊社グループの主力事業である建設コンサルタント事業及びファッションブランド事業において、①当第3四半期連結会計期間における新型コロナウイルス感染症拡大の影響が、当初及び第2四半期時点の予測を超えるものであったこと及び②第2四半期連結会計期間時点では当連結会計年度内(2020年12月、以下同様)で収束すると見込んでいた新型コロナウイルスの完成拡大の影響が連結会計年度以降も継続し、現時点において第3四半期連結会計期間以降も売上高が当初の予測(以下、「当初計画」と記載します。)まで回復しないことが見込まれます。

係る状況を踏まえ、当連結会計年度における建設コンサルタント事業及びファッションブランド事業の売上高を試算した結果、両事業における売上高が現時点で2020年2月13日に公表した当初計画を大幅に下回る見込みとなったほか、当該売上高の減少により営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益いずれも当初計画を下回る見込みとなりました。それに伴い、2020年10月30日に修正後の業績予想を「業績予想の修正に関するお知らせ」として開示しております。第3四半期決算短信に記載している「2020年12月期の業績予想」は、当該開示に基づき修正後の数値を記載しております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,131,343	1,607,500
受取手形及び売掛金	51,613	30,953
商品及び製品	147,705	174,328
仕掛品	160,623	256,925
原材料及び貯蔵品	28,408	32,477
その他	33,850	187,718
流動資産合計	2,553,544	2,289,904
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,431,630	1,526,369
土地	2,507,312	2,441,662
その他(純額)	10,703	27,435
有形固定資産合計	3,949,647	3,995,466
無形固定資産		
ソフトウェア	6,410	4,498
その他	13,969	11,457
無形固定資産合計	20,379	15,955
投資その他の資産		
投資有価証券	169,961	76,946
繰延税金資産	20,231	19,698
その他	163,874	188,420
貸倒引当金	△16,535	△16,085
投資その他の資産合計	337,531	268,980
固定資産合計	4,307,558	4,280,402
資産合計	6,861,102	6,570,307

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	21,107	17,677
1年内返済予定の長期借入金	33,627	33,157
未払法人税等	53,401	27,683
賞与引当金	12,400	29,448
受注損失引当金	16,182	—
返品調整引当金	1,621	393
前受金	139,813	278,890
その他	104,421	41,972
流動負債合計	382,575	429,222
固定負債		
長期借入金	1,983,197	1,880,326
資産除去債務	22,828	22,830
その他	40,533	40,000
固定負債合計	2,046,559	1,943,156
負債合計	2,429,134	2,372,379
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,000,000	5,000,000
資本剰余金	635,850	632,576
利益剰余金	△957,877	△1,099,322
自己株式	△374,993	△362,176
株主資本合計	4,302,979	4,171,077
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△7,006	—
為替換算調整勘定	△40,608	△151,664
その他の包括利益累計額合計	△47,614	△151,664
新株予約権	176,602	178,515
純資産合計	4,431,967	4,197,928
負債純資産合計	6,861,102	6,570,307

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)
売上高	1,377,540	645,461
売上原価	717,712	278,629
売上総利益	659,828	366,831
販売費及び一般管理費	453,430	340,261
営業利益	206,397	26,570
営業外収益		
受取利息	3,666	6,872
投資有価証券清算分配金	1,556	—
補助金収入	—	5,604
債務勘定整理益	—	4,200
未払配当金除斥益	4,325	3,832
保険解約返戻金	—	1,035
その他	2,840	3,620
営業外収益合計	12,389	25,165
営業外費用		
支払利息	65,467	62,416
支払手数料	887	—
為替差損	—	790
その他	2,047	3,610
営業外費用合計	68,402	66,817
経常利益又は経常損失(△)	150,383	△15,080
特別利益		
投資有価証券売却益	1,575	720
新株予約権戻入益	5,707	843
固定資産売却益	11,231	34,810
特別利益合計	18,514	36,373
特別損失		
減損損失	1,577	1,484
店舗閉鎖損失	1,291	—
特別損失合計	2,868	1,484
税金等調整前四半期純利益	166,029	19,808
法人税等	62,493	50,632
四半期純利益又は四半期純損失(△)	103,535	△30,824
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	103,535	△30,824

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	103,535	△30,824
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△157	7,006
為替換算調整勘定	△93,581	△111,056
その他の包括利益合計	△93,738	△104,050
四半期包括利益	9,797	△134,874
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	9,797	△134,874
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益又は税引前当期純損失に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失に当該見積実効税率を乗じて計算しております。但し、見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用しております。

(追加情報)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2019年1月1日至2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額(注) 2
	建設コンサル タント事 業	ファッショ ンブランド 事業	投資事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	909,603	324,770	143,166	1,377,540	—	1,377,540
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	867	—	867	△867	—
計	909,603	325,637	143,166	1,378,407	△867	1,377,540
セグメント利益又は損失(△)	118,988	21,886	59,111	199,986	6,410	206,397

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額6,410千円には、セグメント間取引消去19,286千円、各報告セグメントに配分していない全社収益及び全社費用の純額△12,876千円が含まれております。全社収益は、主に子会社からの経営指導料であり、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第3四半期連結累計期間において減損損失を「建設コンサルタント事業」で1,577千円計上しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自2020年1月1日至2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額(注) 2
	建設コンサル タント事 業	ファッショ ンブランド 事業	投資事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	310,195	183,472	151,794	645,461	—	645,461
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	95	—	95	△95	—
計	310,195	183,567	151,794	645,557	△95	645,461
セグメント利益又は損失(△)	△67,204	△36,480	110,764	7,079	19,490	26,570

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額19,490千円には、セグメント間取引消去19,341千円、各報告セグメントに配分していない全社収益及び全社費用の純額149千円が含まれております。全社収益は、主に子会社からの経営指導料であり、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第3四半期連結累計期間において減損損失を「建設コンサルタント事業」で1,484千円計上しております。